

# 李登輝前總統が離任後初外遊に英国訪問

## サッチャー元首相と中国(共)の民主化語り合う

●私人にビザの制限なし

李登輝前總統は六月二十七日、英国留学中の孫娘・李坤儀さんを訪ねるため、曾文惠夫人とともにロンドンに向け出発した。この外遊は、李登輝前總統が五月二十日に總統を離任してより最初のものとなる。

出発にさきだつ六月二十二日夜、陳水扁總統は李前總統の私邸である大溪鴻禧山莊に李前總統夫妻を訪ねて初外遊を祝った。このことから、新政権が前總統の外遊準備に相應の協力をしたことが伺える。

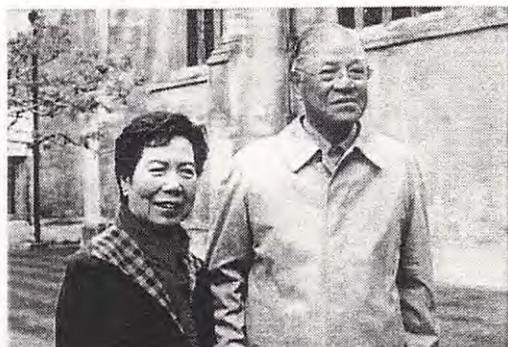
なお今回の訪英には孫娘訪問のほかに、サッチャー元首相との会談、マンチェスター大学訪問なども重要な日程の一つになっている。これについて現地有力紙のロンドン・タイムズは「中国(共)は李登輝氏の訪英は英国政府の台湾の主権承認につながる」として英国に強烈な抗議をしている」と報じた。実際に中国(共)外務省は英国政府に対し、「(李登輝氏

が)いかなる身分や名目での外国訪問にも断固反対する」などと反発を見せているが、英国政府は「李登輝氏はすでに總統の職にはない。一人の旅行が中国(共)との関係に影響を及ぼすことは考えられない」と明快な法治主義の立場を示し、ビザを

発給した。帰国は七月二日。

●サッチャー元首相と会談

李登輝前總統は英国時間六月二十



6月29日、李登輝前總統夫妻はケンブリッジ大学を参観(「ニュートンのリンゴの木」の前で)

八日午前、ロンドン市内のサッチャー事務所にてサッチャー元首相を訪問し、中国大陸の民主化などについて語り合った。サッチャー元首相は一九九二年に台湾を訪問して李登輝總統(当時)と会見しており、両者は八年ぶりの再開となる。

この会見においてサッチャー元首相は、「中国は広大な土地と膨大な人口を擁しており、これを基礎にも民主制度と自由経済制度を実施したなら、中国人は世界で非常に優れた役割を演じることになる。だが残念ながら、その方向に対し中国はきわめて緩慢である」と述べた。李

前總統はこれに同意を示し、「中国大陸はかつて列強に圧迫されたが、現在は逆に覇権主義によってアジアの近隣諸国を圧迫している。もし中国(共)が民主主義を實行したなら、人民の創造力が十分に發揮され、中国の将来が大いに開け、發展するばかりでなく、アジア太平洋地域の平

本誌記事の転載について  
本誌の記事を他の刊行物に転載される場合は、本誌から転載の旨を明記の上、掲載紙(誌)を三誌必ず当社あてにご送付願います。ただし、他紙(誌)からの転載記事の再転載は固くお断り致します。(中華週報社)

和と安定を促進することにもなる」と指摘した。

また、サッチャー元首相がアジア金融危機に際し、台湾が卓越した経済力と対応を發揮した点を称賛したことに対し、李前總統は「台湾が危機を大過なく乗り切ることができたのは、まず政府が清廉潔白であったことと、中小企業を主体とした経済構造に起因する」と語り、「台湾は危機に際し臨機応変かつ迅速に経営体質を調整した。このため危機のなかにも一定の経済成長率を維持することができた」と指摘した。

なお、李登輝氏は母校の京都大学訪問を希望するとともに、今年十月末に長野県松本市で開催されるアジア・オーブン・フォーラムに招待されている。また李登輝氏は總統現役の一九九五年に、母校の米コーネル大学を訪問し、大学および米市民から歓迎された前例がある。

《台北「自由時報」6月27・29日》